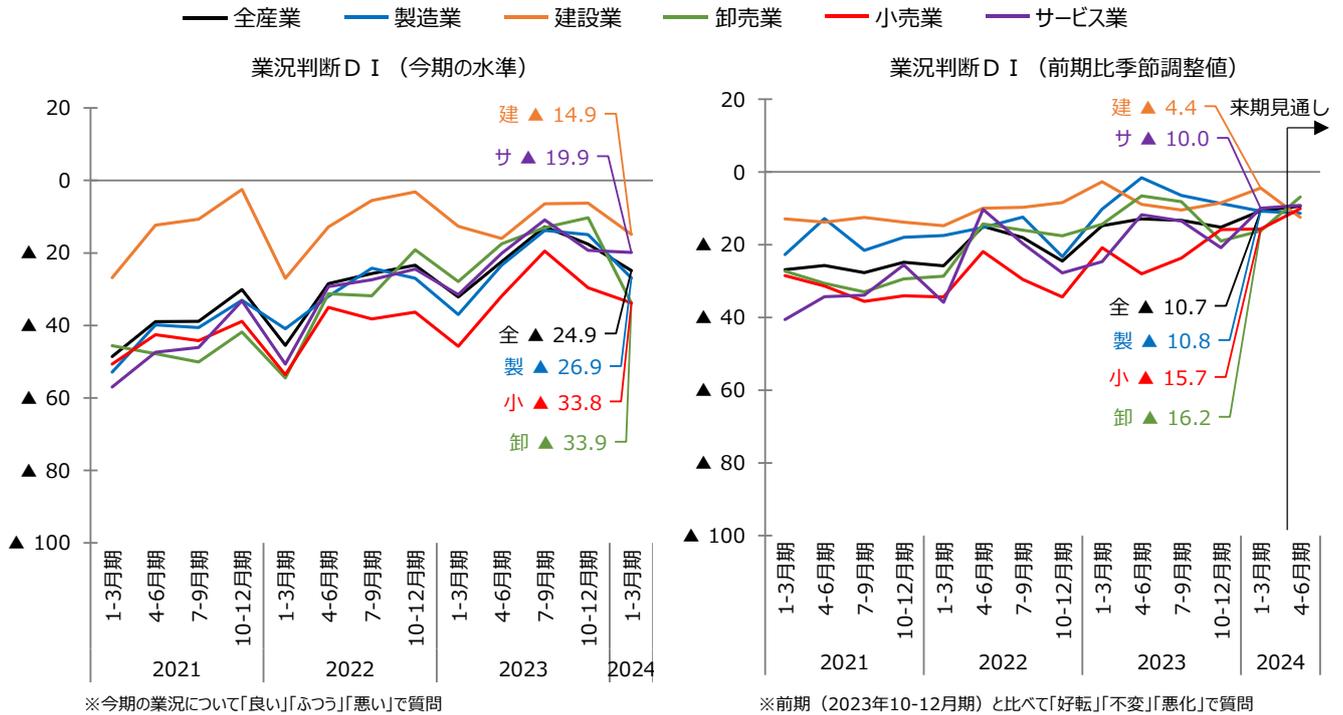


第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 北海道



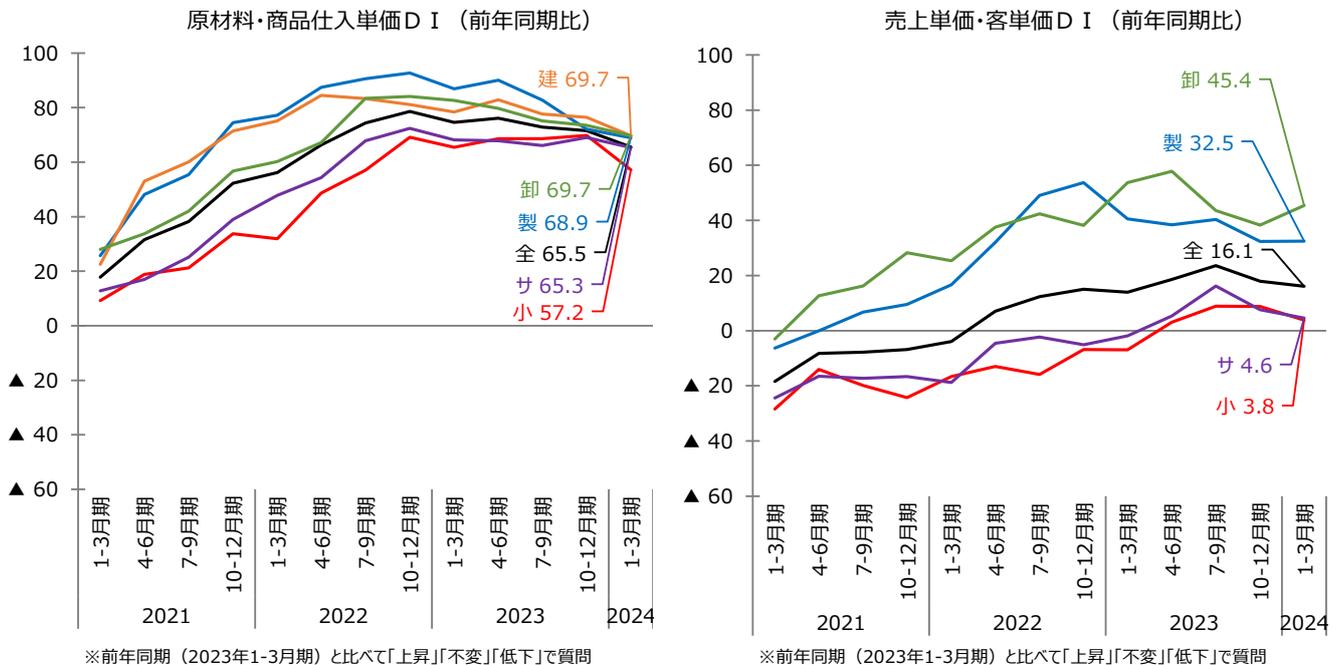
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年10-12月期）より7.3ポイント減の▲24.9と2期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より6.0ポイント減の65.5と3期連続して低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.8ポイント減の16.1と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2024年3月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,832 有効回答企業数：17,802 有効回答率：94.5% うち、北海道：724企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第175回 中小企業景況調査（2024年1-3月期） 北海道

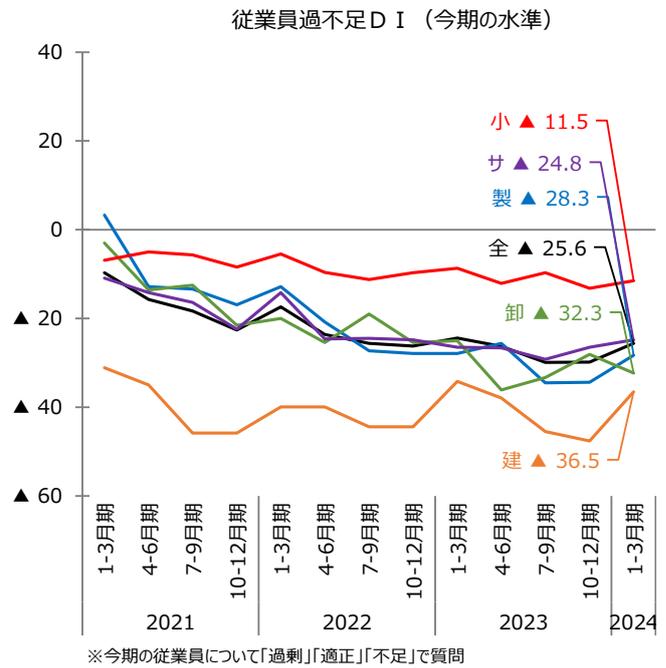
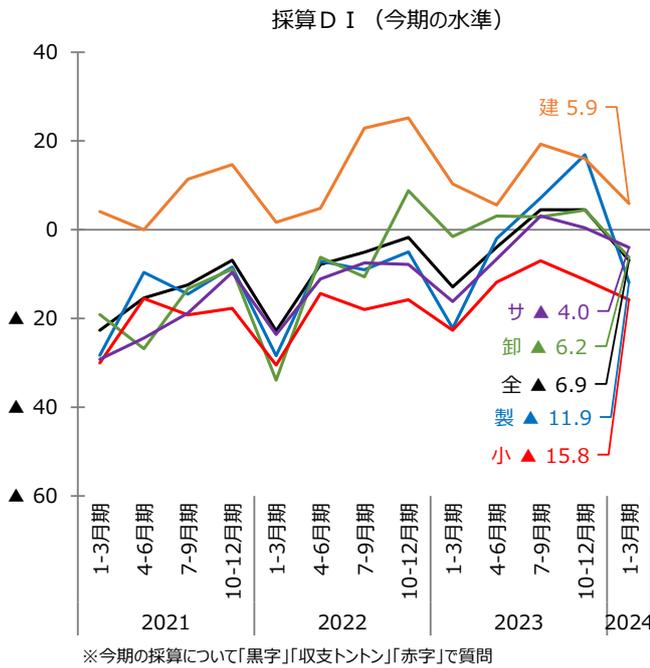


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より11.4ポイント減の▲6.9と4期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より4.2ポイント増の▲25.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、製造業、小売業、サービス業で上昇、卸売業で低下した。



5. 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	ここ数年の受注数増加に伴い、数か月前から積極的に人材獲得に力を入れてきました。今までの求人方法ではなく、SNSを駆使し、募集をかけたところ、今期より1名の採用が決まりました。	製造業 鉄骨製造業
	今期、来期の業況の要因として民間需要の低下が挙げられます。一部の観光及び宿泊等の業況は改善されても、設備投資までの勢いはなく、他業界も同様です。仕事がなければ職人もいなくなるため、悪循環に陥ります。	建設業 一般土木建築 工事業
	該当なし	卸売業
	仕入単価上昇に伴い、販売価格を上げざるを得なく、一見、売上が増加しているように見えるが、実際は光熱費等の経費も増加しているため、利益が少ない。	小売業 各種食料品小 売業
	検査仕様が変化することにより、OA機器が必要となり、その機器の活用方法を習得することが必須となる。近年では技術者の確保もさることながら、高齢化する従業員の電子化及び技術向上に限界を感じる状況である。	サービス業 自動車一般整 備業
見通し	原材料高騰は続いているが、価格転嫁が追いついたため、業況は好転。繁忙期の在庫を、この閑散期に一気に作るため、一時的に赤字になるが、新規の取引先も増えているので、4～5月からは黒字計上の見込み。	製造業 水産缶詰・瓶 詰製造業
	決して今年度が良いわけではなく、コロナ禍であった昨年1～3月が悪すぎた印象。中小企業においては、好景気は感じられず、2024年度からの建設業問題や運送業問題によって、更に首を絞められる状況になる。	建設業 道路標示・区 画線工事業
	該当なし	卸売業
	業種によって、好況もあるが、不透明な環境で一般的に財布のヒモは緩まない。経済成長を実現し、消費者に需要回復を願いたい。	小売業 他に分類され ないその他の小 売業
	円安による外国人旅行者の増加。仕入価格は上がっているが、宿泊者が増加したことで、カバーできている。将来、円高になり、利用者が減っても、仕入価格が変わらないことにならないか心配である。	サービス業 簡易宿所

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。